

# 語ろう あかしドリーム

⑥

「との思いが私にとって活動の原動力だからです。」

働く親を持つ小学生らが放課後を過ごす「学童」と、幼児から高校生までが自由に遊べる「児童館」。両方の機能を兼ね備える「放課後スクール」を、大久保小学校校区にある一軒家で運営しています。

英会話や科学の遊びを通じて地域の人たちと触れ合ったり、高校生に勉強を教わったりできることが特色です。各小学校内にも学童はありますが、大久保小のみならず、大久保南小や谷八木小のお子さんが通って来ています。

その目と鼻の先では、認定子ども園「みつぼこども園」を営んでいます。コロナ禍の中で、土曜に預かるお子さんの人数が減りました。どうやら、リモートワークの普及で、親が家に居られるようになったようです。コロナ禍でさまざまな行動制限も受けましたが、親子で過ごす時間が増えたことは良かった。

「幼保連携型」として保育所と幼稚園の両方の良さを大切にしていますが、3〜5歳児については、保育園として通う子どもも、幼稚園として通う子どもも多々います。それは、専業主婦の子育てを支えたい

## 子どもの成長 地域で支える

「3歳児の居場所づくり」

関東出身の私にとって、明石とゆかりができたきっかけは阪神・淡路大震災でした。義父の建設会社が被災。夫が継ぐことになり、東京から移住したのです。その時に困ったのが、3歳の長女を幼稚園へ通わせられなかったこと。明石市内では幼稚園の9割が私立ですが、全市立幼稚園で3歳児の保育が始まったのは2019年度から。それまでは4歳児、5歳児のみを受け入れていました。

結婚するまで私が勤めていた幼稚園は、3歳児教育を重んじていました。子どもはほめるから友達を欲しがりますが、気が合う、合わないがはっきりしています。遊び相手は母親が決めるのではなく、自分で見つけるものなのです。

サービスが地域にないなら、自分たちでつくってしまえ。そう主婦仲間たちと意気投合し、3歳児向けのサークル「みつくず」を立ち上げました。西明石と大久保に開設し、計100人ほどのお子さんが通ってくれるまでに広がりました。

運営主体としてNPO法人をつくった後、西明石で認可外保育施設の運営に乗り出しました。でも、もっと子どもが通う施設を充実

「地域のハブとなる子育て支援をしたい」と神尾由美さんはいずれも明石市大久保町大久保町



小学生らが集う放課後スクール

【子育て支援の拠点に】地域のハブ(拠点)となる子育て支援をしたいです。地域に根付く、身近に感じてもらえるものを。

放課後スクールやみつぼこども園に、子育て世代だけでなく、高齢者や中高生に集ってもらいたい。培った経験を地域へ還元したい。他世代との関わり合いの中で学んだりしてほしい。そんな活動の一つとして、子どもの成長に伴い持たれる絵本を集め、放課後スクール内に小さな図書室を開こうとしています。

いろんな人が参加し、いろんな人と関わり、いろんなことができる。NPO法人や社会福祉法人の名称「みつくず」に込めた、そんな思いをかたちにしたい。

【まとめ・長尾亮太】  
＝おわり＝

「NPO法人みつくず」代表  
神尾 由美さん



「地域のハブとなる子育て支援をしたい」と神尾由美さんはいずれも明石市大久保町大久保町

子育て交流ルーム 子育て支援の拠点として、みつぼこども園の一室を地域に開放している。利用できるのは月、火、水曜の午前9時～午後2時。同年代の子ども同士が遊べるほか、情報交換できる子育て仲間をつくれる。月1回開くマラケクでは、発達段階に応じた子育てのこつについて保健師や管理栄養士が助言したり、親子で体操したりする。同園 ☎ 078・936・3282

# 明石

■明石総局  
〒673-0882  
明石市相生町  
2-10-24  
TEL: 078-912-4343  
FAX: 078-913-2833  
e-mail  
akashi@kobe-np.co.jp

■本社報道部  
〒650-8571  
神戸市中央区  
東川崎町1-5-7  
TEL: 078-362-7040  
FAX: 078-360-5501  
e-mail  
houdou@kobe-np.co.jp

火事や事故の通報、写真、映像提供、身近な話題、生活情報を上記へご連絡ください

きょうの天気

明石	三木
午前	午後
夜	気温
9	8
3	-1

あすの天気

明石	三木
数字は降水確率	→のち
ノ一時	ノ時々

天気乾燥(7日)

明石	油断大敵
三木	油断大敵

9日 宵戎祭

明石岩屋神社  
http://www.iwaya-jinja.com/